

平成24年度第1回労働問題審議会 議事録

日時：平成24年6月29日（金）14時～15時40分

会場：宝塚市役所 3階特別会議室

出席委員：小西委員・大崎委員・岡本委員・松本委員・渡部委員・村上委員
大野委員・川下委員・椿野委員

事務局：山本産業文化部長・村上産業振興室長・坂本商工勤労課長
山本係長・千原

オブザーバー：庁内関係課職員

1. 辞令交付

構成区分「事業主を代表する者」の友金委員の後任に、岡本学委員（宝塚商工会議所）が、構成区分「関係行政機関の職員」の構成区分の土居委員の後任に、椿野啓三委員（西宮公共職業安定所）、川中委員の後任に西岡正博委員（兵庫県阪神北県民局）がそれぞれ就任。山本産業文化部長から委嘱状を手渡した。（西岡委員は欠席）

2. 署名委員の指名

会長から議事録の署名委員に、大野委員と大崎委員が指名された。

3. 議事（結果）

議題（1）平成24年度宝塚市労働施策に係る行動計画について

96の労働施策に関して、平成23年度の実施状況を踏まえ、24年度事業計画について、重点12事業、新規4事業を中心に説明する。

平成23年度の審議を受け、「2指標・値」欄にアウトカム指標を記載している。平成25～27年度の計画策定時に目標値も記載する予定である。各委員からの主な意見は、次ページ以降の「委員の主な意見」のとおり。

議題（2）次期（平成25～27年度）3ヵ年行動計画の策定に向けて

現在就任いただいている委員14名のうち、関係行政機関の職員の構成区分で就任いただいている3名を除く11名の委員は、本年8月4日までが任期となる。

次回秋頃の審議会で、新委員に次期計画の内容を諮るが、現委員から新委員へ引き継ぐべきこととして、次期計画に取り上げておくべきこと等のご意見をいただきたいと事務局から願う。各委員からの主な意見は、次ページ以降の「委員の主な意見」のとおり。

議題（3）その他について

商工勤労課の事業「ワークサポート宝塚」と「出前日本語講座」を案内する。小西会長から、ワークサポート宝塚の若者しごと相談広場について、若者の対象年齢が39歳まで上が

っていることを、重点的にPRすれば利用しやすくなるのではないかと意見があった。

《委員の主な意見とやり取り》

議題（１）「宝塚市労働施策に係る行動計画」の事業評価等について

[委員]

障害のある子どもも地域児童育成会に入所できると聞いているが、条件があるのか。

（事務局）

障害があってもなくても、条件は同じである。子どもの障害の程度によって、通常の指導員のほかに、1人の子どもに1人、または2人に対して1人の補助員が配置される。

[会長]

P4「私立保育所誘致整備事業」の1指標・値の欄に「平成26年度までに市内保育所の210人の定員増を図る」とあるが、評価の欄には「平成24年4月に達成した」とある。これはどういうことか。

（事務局）

平成24年4月に210人増は達成できているが、待機児童は増え続けているので、更に整備が必要である。

[会長]

最初に設定したものが達成できているので、今後も更に行うということを書いてはどうか。待機児童をどれだけ減らすということを書くこともできる。

（事務局）

この欄は、平成22～24年度3カ年計画の最終数値目標を入れており、22年度の文言が残っている。ご指摘の件は、25年度以降の計画を作る際には、フレキシブルに考える必要がある。

[会長]

P17「市民活動促進支援」の2指標・値に記載している「NPO法人数100団体」とはどういうことか。

（事務局）

法人化等の相談を受けた中から法人設立へと繋がった団体を100団体にするという目標が、市総合計画にあることから記載している。これは平成27年度末の目標値である。

[会長]

27年度末の目標値を入れるとなると、この計画は平成24年度末までで時間的にブランクがあるのでおかしい。これが公表された時に、疑問が出てくることが無いように表記してほしい。

（事務局）

市民等に誤解を与えないような目標値を記載していく。

[会長]

昨年度、官製ワーキングプアを排除してほしいということで、市長へ文書を渡した。やみ

くもに指定管理者制度にするのが良いのかどうか、検討が必要である。サービスについては効率が良くなるかも知れないが、働いている人にとってはどうなのか。そのあたりの視点は考慮されているのか。

(事務局)

昨年10月に労働問題審議会の中で、官製ワーキングプアについてご議論いただき、市長へ提言を上げさせていただいた。そこで言っていることは、主に入札制度にかかわるものがメインで、P11「入札契約制度における、雇用・労働者福祉に関する評価手法の検討」に反映している。

ご指摘のあった指定管理者制度は、市の方針として、直営であった公の施設は、原則的に移行することになっている。制度の継続にあたって、労働部局としては、労働者保護の観点で進めるよう担当部局と協議している。

[会長]

P13「企業活動支援」という新規事業があり、24年度の予算が400万円となっている。事業内容に記載しているものをこの予算の枠でまかなえるのか。市の独自事業か。

(事務局)

今年度スタートさせた市の独自事業である。宝塚市は製造業のイメージが薄く、100社弱ほどの事業所の中で市民が働いているという状況にある。この事業は新たな企業を誘致することも視野に入れているが、重点的には市内企業が市外に流出するのを防ぐことが狙いであり、結果、市民の雇用も守られると思っている。事業内容は配布資料のとおり。

一番大きな支援メニューは、税の2分の1相当額の補助だが、これは、今年度投資された方が、来年課税される税金を納めてからの補助になるので、今年度は支出が発生しないことから、400万円をまかなえる見込みである。

[委員]

「企業活動支援」の正規市民従業員の定義は何か。

(事務局)

市内の企業が事業拡張等によって新たに雇用した社員が、市民であれば対象になる。

[委員]

住民票を添付するのか等、要件を知りたい。パンフレットはあるのか。窓口はどこか。

(事務局)

要綱は作っているが、パンフレットはまだ出来ていない。これからPRしていく。窓口は商工勤労課になる。

[委員]

企業が市民を優先的に採用するとすれば、ハローワーク的に問題があるのではないか。パンフレット等の書き方によっては、市役所が悪者にならないか。

[委員]

宝塚市民だけ賃金を上乘せするなど、差別になるのは好ましくない。結果的に、他市の市民が採用されないということにならないよう、十分に注意しないとイケない。

(事務局)

賃金に差をつけるということではなく、市民を雇っていただいた企業への奨励金である。今後、調整をしながら、齟齬のないようにする。

[委員]

P 8 「出前日本語講座」が新規事業であるが、この事業は既にスタートしているのか。

(事務局)

現在調整中であり、秋にはスタートさせたいと考えている。

[委員]

知的障害の就労施設で、簡単な日本語の会話ならできるというブラジル人が来ているが、難しい話は母国語でないと理解できないので、その際は、交通費を支払ってボランティアの通訳に来てもらっている。そういう状況も知っていて欲しい。

P 6 「若者就労支援（職場体験実習）」の関係で、私が勤める施設が、引きこもりだった方を採用した。その方は誠実で仕事もきちんとできている。そういうことをもっとPRして、引きこもりの方が真面目に仕事をされるということで、一般企業にも受け入れていただけたらと思う。

議題（２）次期（平成２５～２７年度）３ヵ年行動計画の策定に向けて

[会長]

3. 1 1 の震災の教訓を生かして、労問審のテリトリー内で考慮すべきものがあれば、少し修正していくなど、そこを加味した計画を考える必要があるのではないか。

(事務局)

被災地から宝塚市へ避難して来られた方がおられたが、ある程度の期間、この地域で仕事をして生活を立てたいという方には、震災の支援をする部局で、ご希望を聞いて紹介するといったケースがあった。一部、ハローワークにもお世話になった。

[委員]

働く人だけでなく、事業主にも何らかの影響があるかも知れない。商工会議所ではどうか。

[岡本委員]

商工会議所では、東北関連は日本商工会議所で事業者に対してさまざまな支援を行い、一定の成果があった。現在は、震災に限らず、BCP（事業継続計画）策定支援に力を入れている。

[委員]

資料の書き方について、労働問題審議会のフィルターをかけた資料で委員に諮ってほしい。これは、行政サイドの項目羅列にしか見えない。審議するためには、フィルターをかけてもらわないと、読みにくい。

生活保護に対する労働問題をどう扱うのか。市役所として、生活保護の就労に繋がる独自の動きをすれば、市民にも応援していただけるのではないかと。

労働に関する法律、年金を含む社会保障に関する法律など、市民は現状の法律をあまり知らないのと、周知について入れてほしい。

[委員]

年金など社労士がしていることを、市も勉強会を行うなど、検討する必要があるのではないか。

(事務局)

資料の書き方について、どうすれば良いのか、参考にご意見をいただきたい。

[委員]

労働問題審議会では、何人の方が就労可能になったのかということが重要になるので、その視点で作ってほしい。

[委員]

引きこもりの就労支援を今後も続けてほしい。発達障害で、手帳のない人が取り残されている。そういう方にどう対応できるのか、検討して実施してほしい。

[会長]

市民にこの形で公表されるのであれば、分かりやすいものが必要である。

○閉会にあたっての会長コメント

このメンバーでの審議会は本日で最後となる。2年間、会議の進行にご協力いただき、貴重なご意見もいただき、感謝する。今回いただいたご意見は、次期メンバーへ引き継いでいただきたい。

以上